

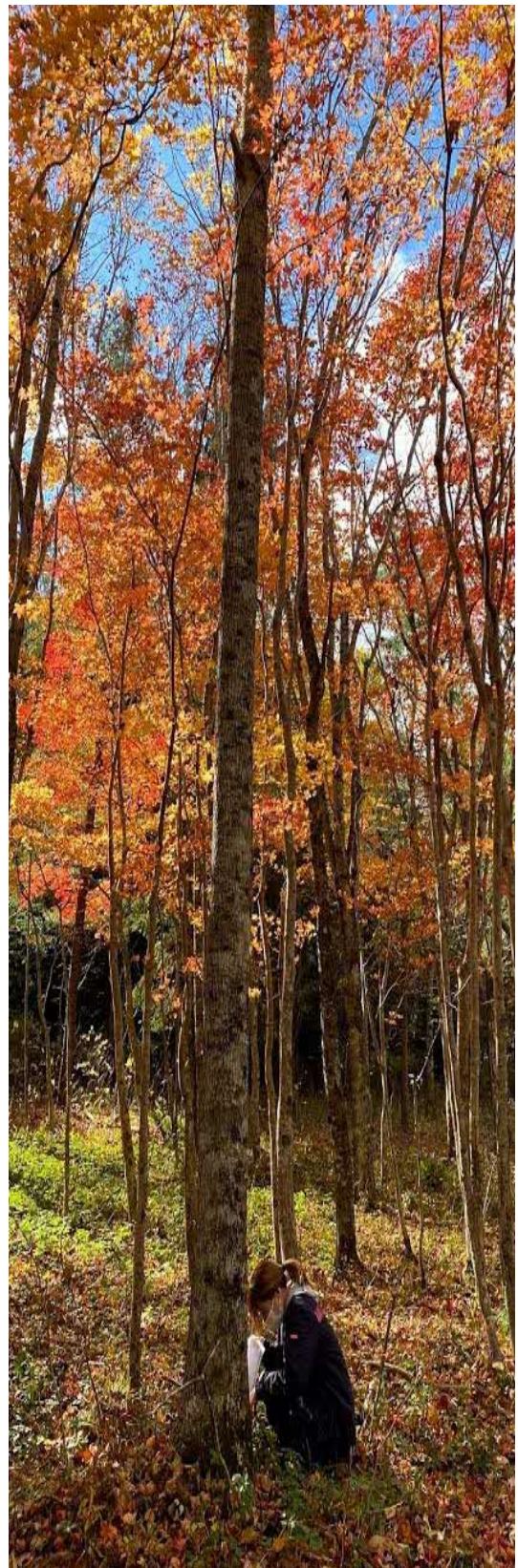
令和2年度（2020年度）「木育マイスター」育成研修 委託業務

業務実施報告書

令和2年度（2020年度）「木育マイスター」育成研修 委託業務 業務実施報告書

もくじ

● 事業概要 -----	2
● 事業スケジュール -----	3
● プログラムの作成	
プログラム作成-----	4
研修日程の設定-----	4
現地情報の収集-----	6
受講生の募集と選定方法-----	7
● 研修会の実施	
第1回-----	7
第2回-----	10
● OJTの実施 -----	13
● フォローアップ研修会の実施-----	19
● まとめ -----	25
● 添付資料 -----	27
①OJT自己評価シート	
②アンケート集計	



●事業概要

当事業は、「木育」の理念を十分に理解し、民間における「木育」活動の企画立案や全体的なコーディネートができ、地域において指導的な役割を果たすことができる人材を育成することを目的に行うものである。

木育マイスター育成研修のカリキュラムは 6 つに分かれしており、①木育の理念、②森づくりの仕事や樹木などの基礎知識、③暮らしと産業の関わり、④人の成長過程における木の存在や癒し効果、⑤木育プログラムにおける伝える技術、⑥木育プログラムの考え方と企画のやり方である。

胆振地区を会場とし、1 泊 2 日の講座を前半（9 月上旬）と後半（10 月下旬）の 2 回行った。OJT は、9 月上旬から 10 月下旬に行った。

当カリキュラムを修了すると、「木育マイスター」として北海道に認定され、木育に関する活動機会には指導者として活躍することが期待されている。令和 2 年度の第 11 期生として 14 名の木育マイスターが誕生することとなる。

また、令和元年度からの取り組みとして、北海道が認定した「木育マイスター」に向けて、今後の活動を後押しすることを目的としたフォローアップ研修を、同じく胆振地区にて開催した。

フォローアップ研修では、ゲストスピーカーをお招きして、講話とワークショップ、木育活動の事例発表、スキルアップ講座、マッチングタイムなど、新たな活動につながるための話題提供と個別相談・指導などを実施し、18 名の参加者（内 5 名はオンライン視聴）の今後の活動が円滑に進むようなアドバイスおよび問題点・改善点の指導を行った。



■本事業における業務

1. 木育マイスター育成研修

1)受講者の募集

道内の木育の実践者や木育関連団体へ広報を行う。
メディアリリースなどで広く一般からも参加者を募る。

2)研修会の開催

「木育達人入門」をテキストとし、室内講義と実習



においてテキスト内容を全て履修できるカリキュラム設定を行う。

第1回目と第2回目の2回に分けて研修会を行う。

3) OJT研修の実施

室内講義や実習で習得した内容を実践するためのOJTを実施する。

2. 木育マイスターフォローアップ研修

1)受講者の募集

木育マイスター登録リストから開催案内を送信するとともに、既認定者へチラシを郵送した。また、ホームページ、SNS等により周知を行う。

2)研修会の開催

今後の活動に役立つ実践的な内容に加え、事例発表を盛り込んだカリキュラム設定を行う。



●事業スケジュール

■事業スケジュール

講師陣の意見を聞き、前年までの講座の反省点を活かしてよりよい研修にするよう、カリキュラムの詳細を検討した。会場となる場所の下見と関係者との打ち合わせを綿密に行い、その地域の特徴を活用した研修プログラムづくりを行った。

7月中旬 講師陣と打合せ、研修日程、会場等決定、広報準備

7月22日 木育マイスター育成研修 受講生募集の広報開始

8月7日 木育マイスター育成研修 応募締切・選定

7月中旬～8月下旬 第1回講座関係団体・講師と打合せ、OJT受入れ団体との調整

9月6日-7日 木育マイスター育成研修 第1回講座

9月上旬～10月中旬 第2回講座関係団体・講師と打合せ、OJT受入れ団体との調整

9月上旬～10月下旬 木育マイスターフォローアップ研修 関係団体・講師と打合せ

9月 11日	OJT第1回目実施
9月 24日	木育マイスター フォローアップ研修 受講生募集開始
10月 23日	木育マイスター フォローアップ研修 応募締切・選定
10月 24日	OJT最終回実施
10月 25日-26日	木育マイスター 育成研修 第2回講座
10月 31日-11月 1日	木育マイスター フォローアップ研修実施

●プログラムの作成

■プログラム作成

木育マイスター育成研修については、テキスト「木育達人入門」に基づき、プログラムはテキストの章立てに合わせ、第1章から第6章の内容を2日間×2回の全4日間と、OJTを一回以上受講することとした。当プログラムは、体験学習法を取り入れ、①まずはやってみる、②なぜそうなのかを考える、③次にどうするかを考えるという学びの循環過程を意識した。過年度研修のアンケート結果などを踏まえ、よりわかりやすく実践的なカリキュラムになるよう、講師や内容の検討を行い、プログラムを作成した。

木育マイスター フォローアップ研修については、北海道と当法人で打ち合わせを重ねながら事業の枠組みを作成のうえ、一部のプログラムはオンライン視聴も可能とするなど、新型コロナウイルス感染拡大防止に取り組みながら、関係各所との打ち合わせを綿密に行い、プログラムを作成した。

■研修日程の設定

野外でも活動しやすい、秋の季節に研修を行うこととし、日程を設定した。平日勤務の方も土日勤務の方も参加しやすいよう、日曜・月曜の研修とした。

◆第1回目 2020/9/6（日）～7（月）

【9/6】

時間	章	カリキュラム	講師	内容	時間	会場
10:30～ 12:00	5章	体験学習法の理解	宮本 英樹	体験から概念へとつなげていく学習法	1.5H	イコロの森
12:00～ 13:00		昼食・休憩				
13:00～ 16:00	1章	木育の理念	煙山 泰子	木育の理念	2.5H	
16:00～ 18:00	4章	木と生きる ～人の成長と木の関係～	宮本 英樹	子どもの発達の特性と過程、人を癒す木の働き	1H	

【9/7】

時間	章	カリキュラム	講師	内容	時間	会場
9:00～ 10:00	2 章	木とふれあい、 木に学ぶ	上田 融	林業体験-育林作業	1H	イコロの森
10:00～ 12:30	2 章	木とふれあい、 木に学ぶ	宮本 英樹	北海道の主な樹種 森林の定義 北海道の森林の特徴 木材の構造と性質	2H	北大研究林 (苫小牧)
12:30～ 13:30		昼食・休憩・移動				
13:30～ 16:20	2 章	木と生きる ～暮らしと産業～	(株)ヨシダ 丹治産業	林業・木材産業の今	2.5H	
16:30～ 17:30	3 章	木と生きる ～暮らしと産業～	上田 融	森林ボランティア、レクリ エーションの今	1H	

◆第2回目 2020/10/25（日）～26（月）

【10/25】

時間	章	カリキュラム	講師	内容	時間	会場
9:45～ 12:15	5 章	木育はつながりのキーワード ～プログラムの伝え方～	宮本 英樹	伝える技術	2H	北大研究林 (苫小牧)
12:15～ 13:15		昼食・休憩・移動				
13:15～ 14:15	5 章	木育はつながりのキーワード ～プログラムの伝え方～	宮本 英樹	伝える技術	1H	
14:30～ 16:30	2 章	木とふれあい、 木に学ぶ	煙山 泰子 上田 融	林業体験—育林作業 林業体験—林産加工	2H	
16:45～ 17:45	6 章	木育はつながりのキーワード ～プログラムの伝え方～	宮本 英樹	プログラム作り方の基礎	1H	イコロの森

【10/26】

時間	章	カリキュラム	講師	内容	時間	会場
9:00～ 11:00	3 章	木と生きる ～暮らしと産業～	西川 栄明	生活の中の木、 木の道具	2H	イコロの森
11:15～ 12:15	3 章	木と生きる ～暮らしと産業～	宮本 英樹	林業林産業の今	1H	
12:15～ 13:15		昼食・休憩				
13:15～ 17:15	6 章	木育はつながりのキーワード ～プログラムのつくり方～	宮本 英樹	プログラム作りの 基礎、模擬演習	3.5H	

◆フォローアップ研修 2020/10/31（土）～11/1（日）

【10/31】

時間	カリキュラム	講師	内容	時間	会場
13:30～ 15:00	ゲストスピーカーによる講演	長野 修平	木育ひとものがたり	1.5H	イコロの森
15:00～ 17:00	ワークショップ 台所で使えるカトラリー製作	長野 修平	白樺でスパチュラ作り	2.0H	

【11/1】

時間	カリキュラム	講師	内容	時間	会場
10:00～ 11:30	木育活動発表	鈴木 正樹 岩井 宏文 上田 融	オンラインによる木育 大人の木育(積丹ジン) ワーケーションセンター と木育	1.5H	イコロの森
11:30～ 12:00	スキルアップ講座	宮本 英樹	コーディネートのコツを 学ぶ	1H	
12:00～ 13:00	昼食・休憩				
13:00～ 15:00	木育マッチングタイム	宮本 英樹	小グループに分かれて 各自の取組報告と新規 事業の企画・発表	2.0H	

■現地情報の収集

現地情報の収集は弊社のネットワークのほか、木育ファミリーのネットワークや、平成22～30年度、令和元年度研修の受講生である木育マイスターに協力してもらい、行った。木育マイスター育成研修第1回目、2回目の研修会場である苫小牧市ではNPO法人いぶり自然学校や北海道大学苫小牧研究林に

ご協力いただき、研修会場や周辺の森の下見、研修内容についての打合せを行った。また、木育マイスターフォローアップ研修の会場においても同法人、現地関係者、木育マイスター等に協力いただき、研修会場や周辺の森について情報を共有し、研修内容についての打合せを行い、研修内容を決定した。

情報収集の際、現地の自然資源、文化資源、人的資源を把握し、研修会を実施する際の素材の整理と危険要因の有無を確認した。

■受講生の募集と選定方法

受講生の募集方法は、広く一般に公募した。北海道と弊社のHPへの掲載、北海道内の木育関係施設への募集チラシの配布を行った。また、「わくわく木育通信」など木育関係者に対しての情報提供を行った。

木育マイスター育成研修については、平成29年度から、応募の際に「研修の受講目的及び自身の得意分野」についてのレポートの提出を実施しており、令和2年度も引き続き実施した。定員10名に対して44名の応募があったことから、急遽定員を増やし、抽選により14名の受講生を決定した。

木育マイスターフォローアップ研修については、定員15名に対して20名の応募（内5名はオンライン視聴を希望）があり、現地参加は15名のため応募者全員を受講可能とした。

●研修会の実施

■第1回目 令和2年9月5日-9月6日

◆1日目（9/5） 苫小牧市 イコロの森 受講者数：14名

10:00 開会式

10:30 体験学習の理解

（北海道観光まちづくりセンター 宮本英樹）

新型コロナウィルス感染拡大防止のため、受講者はパーテーション越しでの会話となった。そのため、講師は非接触型のアイスブレイクの手法を解説・実践した。

参加者の緊張や不安を取り除くには、導入部分でのアイスブレイクが重要であり、参加者や環境などによって臨機応変に対応することの重要性、および「体験学習」の教育手法を学習した。



12:00 昼食 休憩

13:00 木育の理念（KEM工房 煙山泰子）

木育の理念を理解することを目的に、木育や木育マイスターの目指すものについて学んだ。

日本の森には様々な樹種があり、それらが材になった時の違いを、五感で感じる方法が紹介された。また、木で作られた様々な道具・おもちゃや、「木育の玉手箱」を使い、五感の重要性を体験することで、受講生は木育のイメージを広げた。

最後に、木のマグネットづくりを行い、針葉樹と広葉樹の違い、加工のしやすさ、しなくさなどを体感した。



16:00 木と生きる～人の成長と木の関係～

(北海道観光まちづくりセンター 宮本英樹)

講義形式で人の成長と木の関係について説明した。子どもの成長には、子どもの「個性」と発達度合いに合わせた「課題」、「環境」の3つが重要であること、個に対して適した課題設定を行い、環境を整え子どもにとって「快」の状態を作ることが、成長の速度や深度に良い影響をもたらすことなどを解説しながら、木育マイスターが持つ役割について学んだ。



18:15 終了

◆2日目（9/6） 苫小牧市 イコロの森他 受講者数：14名

9:00 木とふれあい、木に学ぶ

(北海道観光まちづくりセンター 上田 融)

研修2回目に実施する林産加工の講義で使用する白樺の樹をチェーンソーで伐採する様子を見学した。鋸の使い方や木への切込みの入れ方、倒木の方向など安全指導を行った後、受講者たちは各自伐採体験をした。伐採した木々を馬搬にて所定の場所まで運ぶ姿を見て、受講生たちも感動していた。



10:00 木とふれあい、木に学ぶ

(北海道観光まちづくりセンター 宮本 英樹)

研修会場にて北海道の樹種についての講義後、苫小牧北大研究林に移動した。移動中のバス車内では、「樹種図鑑」を使用し、北海道の樹種の特徴について解説した。研究林では説明した北海道の主要な樹木があるかフィールドワークを実施しながら、実際に樹皮や葉に触ることで違いを体感し、水辺に生える樹の特性などを学んだ。



12:30 移動 昼食 休憩

13:30 木と生きる～暮らしと産業～

(株式会社 ヨシダ)

初めに、(株)ヨシダさんの取組や現在の木材市場についての説明をいただき、工場へ移動した。工場では、原木の選定から皮剥ぎ、製材されるまでの一連の過程を見学した。大型機械が終始稼働している中でも、最後の点検は人間の目によって行われているなどお話をいただいた。



14:40 木と生きる～暮らしと産業～

(丹治林業株式会社、ウッドファイバー株式会社)

2社ともチップ加工工場であるが、使用する材に違いがあり、用途も異なっている。丹治林業さんでは、廃材になるような木を細粉しチップに加工し、利用価値を高めていると説明いただいた。また、ウッドファイバーさんでは、カラマツやトドマツなど北海道産針葉樹のチップを使用し、ウッドファイバー（住宅用断熱材）に加工されるまでの製造過程を見学した。見学後、実際に異なる断熱材を使用した実験部屋に入り、その違いを体感した。



16:30 木と生きる

～森林ボランティア、レクリエーションの今～
(NPO 法人いぶり自然学校 上田 融、八木 一馬)
上田氏が和みの森、イコロの森を活用しながらどのように森林サービス業の活性化やボランティアを増やしていくのかを失敗談を交えながらお話しeidaita。

最初は「参加者」として参加していた地域住民も、活動に共感をもってもらう事で「参画者」として加わってもらえるようになった事など、今後のマイスターが活動を行う上で参考となった。



■第2回目 令和2年 10月 25日-10月 26日

◆1日目 (10/25) 苫小牧市 イコロの森他 受講者数：14名

9:45 木育はつながりのキーワード～プログラムの伝え方

(北海道観光まちづくりセンター 宮本英樹)

プログラムを考える際に、その活動の趣旨を伝えるために、流れや伝え方についてアクティビティを実際に体験しながら学習した。アクティビティについては、屋外にて落ち葉や枝などを集めて高さ・長さを競うゲーム、アートの製作、袋の中身当てゲームなどを実施した。

受講者は各アクティビティが何を目的として提供されているのか、全体プログラムの流れはどのように考えられているかなど、プログラムを効果的に伝えるために必要なスキル等について身を以て学習していた。



13:15 木育はつながりのキーワード～プログラムの伝え方

(北海道観光まちづくりセンター 宮本英樹)

プログラムを作成する前段として、受講生一人一人のOJTの体験を全体で共有した。共通する重要なキーワードに着目したことで、個人の体験を踏まえた学びを促進し、明日からのプログラムに繋げた。

受講者からは、自分が主催者であった際には、こんな活動にしたい、気をつけていきたいなどの発言が見られた。



14:30 木とふれあい、木に学ぶ

(KEM 工房 煙山 泰子、

北海道観光まちづくりセンター 上田 融)

白樺の木でカッティングボードの制作を行った。薄くカットされた1枚の板を、受講生好みに合わせた部位・長さにカットし、削り馬で形を整え、穴をあけ、鉋をかけ、最後にえごま油を塗り、完成させた。1回目の講義の中でイコロの森の木を伐採体験し、身近な木が材料となり、自身の手で道具にしていく一連の過程は受講生からも貴重な体験だったとの声があがつた。



17:00 木育はつながりのキーワード

～プログラムの作り方～

(北海道観光まちづくりセンター 宮本英樹)

プログラムを作成する時には「思い」が大切であることを説明し、プログラム作成の手順をキーワードにすることで、必要な情報を印象付けた。

受講者への問い合わせ・回答を繰り返しながらプログラムを構成していき、より具体的な説明を行うことで、イメージを具現化する手法を学んだ。



18:00 終了

◆2日目 (10/26) 苫小牧市 イコロの森他 受講者数：14名

9:00 木と生きる～暮らしと産業～

(ノンフィクションライター 西川栄明)

木育マイスターとはどのような存在かについて説明があり、マイスターとしての自覚を持つことや企画力の重要性について再認識した。

次に木育プログラムの企画立案のヒントとして色々な事例の紹介があった。その後、木材製品の歴史や特徴について理解することを目的に、木の道具、木の文化や習慣などの歴史的背景についてスライドを見ながら講義を受けた。受講者は、昔から樹種の特徴による適材適所を考えながら人と木が共存してきた経緯を学んだ。



11:15 木と生きる～暮らしと産業～

(北海道観光まちづくりセンター 宮本英樹)

大沼流山牧場での活動や森の中のワーケーションセンターの推進活動などについて紹介した。大沼流山牧場においては、森の開拓から始まり、切った木を馬搬で運び出し、森や農場を整地し、メイプルシロップの生産や観光農場として展開するまでをスライドを見ながら紹介した。森林の活用方法として「空間利用」や「里山的利用」など、時勢に合わせた発想と着眼点が大切であることを学んだ。



12:15 昼食

13:15 木育はつながりのキーワード～プログラムのつくり方～

(北海道観光まちづくりセンター 宮本英樹)

これまでの講義で学んだ「体験活動」やプログラム作成に大切な「思い」「ねらい」などの企画作りのアウトラインを活用して、受講生自身がこれから取り組みたい企画を提案し、そのテーマについてグループワークにより 4 つのプログラムの企画・発表をした。



最後は各自の「木育宣言」をし、全 4 日間の研修のまとめとした。

17:15 終了

●OJTの実施

OJTは第1回研修と第2回研修の間に実施することで、その経験を、後半の第2回研修に活かせるようにした。道内全域（道央地域、道北地域、十勝地方、道東地域、道南地域）で計 24 個のOJTを設定し、そのうち 13 個のOJTに参加があった。OJT実施に当たっては、受け入れの担当者と調整を行い、研修生の学びに重点を置いたサポートを依頼した。

OJT当日は、プログラムの事前準備や打合せ、振り返りまで参加してもらい、イベントを運営するマネジメント手法や実際のプログラム手法、注意点などを体験的に学んだ。OJT終了後は、研修生に自己評価シートに自分の役割、評価・反省点、感想などを記入してもらうことで、OJTの内容を振り返り、今後の自身の活動に生かせるようにした。

番号	日程	講師	場所	内容	受講人数 (延べ人数)
1	9月 11 日	日月 伸 大石 拓人	帶広の森・ はぐくーむ	小学校 6 年生の間伐体験（卒業制作用）	1 名
2	9月 12 日 10月 17 日	上田 融	苦東和みの森	月に一度は森づくり 親子向け 森林整備	3 名
3	9月 17 日	鈴木 正樹	鷲ノ木小学校 (株)ハルキ	オンライン工場見学	1 名
4	9月 24 日 10月 6 日	札幌まるやま 自然学校	円山動物園	小学生の放課後自然体験活動。	4 名
5	9月 27 日	大竹 将太	るるもっぺ憩いの森 (船場公園)	子どもたちと森林の探検をしたり、虫取りなど	3 名
6	9月 30 日	鈴木 正樹	市渡小学校 体育館	ベンチ・テーブルづくり	2 名
7	10月 7 日 10月 8 日	藤木 加奈子	キトウシ子ども の森 キトキト)	森のようちえんの日々の活動を一緒に体験	2 名
8	10月 10 日	札幌まるやま 自然学校	北海道芸術デザ イン専門学校	オンライン木育イベントにおいて、クラフト指導を行う（ペンスタンドづくり）。OJT では準備やセッティングなどをサポート	1 名
9	10月 10 日	萩原 寛暢	桜ヶ丘森林公园	森林体験教室「こども木育デー」という小学生向けの 1 日イベント	1 名
10	10月 13 日	安保 翔太	大樹町北保育園	たき火体験と炙り絵 (町内保育園児対象)	1 名
11	10月 17 日	札幌まるやま 自然学校	藻南公園	公園主催の秋の子ども向けイベントにおいて、自然体験プログラム、焼き芋体験、クラフト指導など	1 名
12	10月 18 日	大石 拓人	帶広の森・ はぐくーむ	秋の森ちやれんじ day (仮) 森づくりに関するコンテンツをそろえた体験型のイベント	1 名

13	10月18日	札幌まるやま 自然学校	ときの森の畠 (江別市)	まるやま自然学校主催の幼児 親子向けプログラム。畠の自 由遊びや芋掘り、焼き芋体験	1名
----	--------	----------------	-----------------	---	----

1. 9/11 (金) 9:00-12:00

講 師：日月 伸・大石 拓人

場 所：帯広の森・はぐくーむ

参 加 者：子ども 24名、大人 2名

OJT 受講者：高橋 由紀雄

内 容：間伐体験と卒業制作（写真立て）用の材料
のための白樺の木の輪切り作業



2. 9/12 (土) 9:00～14:00

10/17 (土) 9:00～14:00

講 師：上田 融

場 所：苫東和みの森

参 加 者：9/12 (土)：子ども 13名、大人 17名

10/17 (土)：子ども 30名、大人 10名

OJT 受講者：内田 寿美 (9/12)、

内 容：月に一度は森づくり親子向け 森林整備



3. 9/17 (木) 10:30～12:00

講 師：鈴木 正樹

場 所：鶯ノ木小学校・(株)ハルキ

参 加 者：子ども 7名、大人 2名

OJT 受講者：山本 賢治

内 容：オンライン工場見学



4. 9/24 (木) 14:00～16:30

10/6 (火) 14:00～18:00

講 師：札幌まるやま自然学校

木育マイスター 高野克也

場 所：円山動物園ほか

参 加 者：9/24 (木)：子ども 12名、大人 5名

10/6 (火)：子ども 5名、大人 4名

OJT 受講者：佐貫 友紀、新村 充 (9/24)・西村 舞香、小野寺 亮 (10/6)

内 容：小学生の放課後自然体験活動のサポート



5. 9/27 (日) 9:00～15:00

講 師：大竹 将太
場 所：船場公園
参 加 者：子ども 7名、大人 5名
OJT 受講者：道場 祥子、塩田 輝明、大滝 英治
内 容：子どもたちと森林の探検や虫取りなど



6. 9/30 (水) 12:50～14:25

講 師：鈴木 正樹
場 所：市渡小学校 体育館
参 加 者：子ども 21人、大人 8人
OJT 受講者：山本 賢治、原田 泰
内 容：ベンチとテーブル作り



7. 10/7 (水) 9:00～15:30

10/8 (木) 9:00～15:30

講 師：木育マイスター 藤木 加奈子
場 所：キトウシ子供の森 キトキト
参 加 者：10/7 (水) :子ども 10名、大人 4名
10/8 (木) :子ども 9名、大人 4名
OJT 受講者：村山 恵一郎 (10/7)・道場 祥子 (10/8)
内 容：森のようちえんの日々の活動と一緒に体験



8. 10/10 (土) 12:30～16:30

講 師：札幌まるやま自然学校
木育マイスター 高野克也
場 所：北海道芸術デザイン専門学校
参 加 者：子ども 18人
OJT 受講者：内田 寿美
内 容：オンライン木育イベントにおいて、
クラフト指導を行う（ペニスタンドづくり）。
OJT では準備やセッティングなどをサポート



9. 10/10 (土) 9:00~16:00

講 師：木育マイスター 萩原寛暢
場 所：桜ヶ丘森林公園
参 加 者：子ども 18 名
OJT 受講者: 高橋 由紀雄
内 容：森林体験教室「こども木育デー」という小学生
向けの 1 日イベント



10. 10/13 (火) 8:00~11:00

講 師：木育マイスター 安保翔太
場 所：大樹町北保育園
参 加 者：子ども 8 名、大人 2 名
OJT 受講者: 高橋 由紀雄
内 容：たき火体験と炙り絵



11. 10/17(土) 8:20~12:40

講 師：札幌まるやま自然学校
木育マイスター 高野克也
場 所：藻南公園
参 加 者：子ども 19 名、大人 12 名
OJT 受講者: 内田 寿美
内 容：公園主催の秋の子ども向けイベントにおいて、
自然体験プログラム、焼き芋体験、クラフト指導など



12. 10/18 (日) 9:00~15:00

講 師：木育マイスター 大石拓人
場 所：帯広の森・はぐくーむ
参 加 者：子ども、大人ともに多数
OJT 受講者: 小瀧 綾
内 容：秋の森ちやれんじ day (仮)
森づくりに関するコンテンツをそろえた体験型
のイベント



13. 10/18 (日) 8:30~14:00

講 師：札幌まるやま自然学校
木育マイスター 高野克也
場 所：ときの森の畑（江別市）
参 加 者：子ども 29 名、大人 26 名
0JT 受講者：道場 祥子
内 容：まるやま自然学校主催の幼児親子向けプログラム。
畠の自由遊びや芋掘り、焼き芋体験



■フォローアップ研修 令和2年10月31日-11月1日

◆1日目 (10/31) 苫小牧市 イコロの森 受講者数：18名（内5名はオンライン視聴）

13:00 開会式

13:30 ゲストスピーカーによる講演

～木育ひとものがたり（NatureWorks 長野修平）

日々の生活に木育を取り込んでいる長野氏のライフワークをスライドを交えながらお話しいただいた。

廃材から自身の自宅を建て、身の回りの道具を自分で制作するなど、木育活動を特別なものとして捉えるのではなく、生活の一部になっていることなどをお話しいただいた。



15:00 ワークショップ～台所で使うカトラリー製作～

（NatureWorks 長野修平）

白樺でスパチュラ（へら）を制作。様々な道具の使い方の説明・安全指導を行ったのち、各自気に入った素材を選んで、制作に取り組んだ。

途中、加工の仕方を講師に手助けしてもらったり、出来上がりのイメージを共有するなど、ものづくりの楽しさを再認識する時間となった。

17時の終了時間を延長して、完成まで作業する受講生の姿も見られた。



17:00 終了

◆2日目（11/1） 苫小牧市 イコロの森 受講者数：17名（内5名はオンライン視聴）

9:00 事例発表

1. オンラインと木育 ((株)ハルキ 鈴木正樹 ※オンライン参加)

最初に、これまでの鈴木氏の木育活動についての発表と、昨年度のイベント回数や参加延べ人数の報告があった。今年は、コロナ禍ですべてのイベントが中止となり、新たな試みとして、「オンライン木育ワークショップ」や「オンライン工場見学」を実施した様子をスライドを使いながら紹介いただいた。



2. 「大人の木育」積丹町のクラフトジン

((株)積丹スピリッツ 岩井宏文 ※オンライン参加)

今年、積丹町に開設したクラフトジンの蒸留工場から中継で繋ぎ、工場内の様子を紹介いただいた。

岩井氏からは森の暮らしと地域の活性化を結びつける材料として「クラフトジン」に着目したこと、他社とのコラボによるボタニカルチョコレートの開発など様々な取組について説明いただいた。



3. 自然学校×木育=ワークーション

(NPO 法人いぶり自然学校 上田 融)

子供向けの自然体験活動として使用していた建物を「自然学校」と「木育」のそれぞれの強みと弱みを掛け合わせ、森のワークーションセンターとして利用するまでの経緯や考え方についての説明後、ワークーションセンターの構造や運営方法を紹介いただいた。



11:30 木育マイスタースキルアップ講座

～コーディネートの極意を学ぶ～

(北海道観光まちづくりセンター 宮本英樹)

木育マイスターの役割として「つなげていくこと」協働事業の必要性について解説した。誰と誰を結びつけるか、いつ参加させるのかなど、参加をデザインすることが、コーディネーターとして重要な要素であると説明した。



12:30 昼食

13:30 木育マッチングタイム

小グループに分かれ、お互いの木育活動について自己紹介し、各自の得意分野や課題について共有した。本研修では「木育ワーケーション」と「道東の彩り、弟子屈の色を作る木育ワークショップ」の2つのイベントの企画が発表された。



15:00 修了式



●まとめ

・受講人数について

令和2年度木育マイスター育成研修は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、定員を例年の半分である10名に設定したが、約4倍の44名の申し込みがあったため、急遽定員を増やし、抽選で14名に絞り受講者を決定した。14名が全てのカリキュラムに参加し、全受講生が研修カリキュラムを修了した。

令和2年度木育マイスターフォローアップ研修については、育成研修同様、定員数を昨年より減らし15名に設定した。現地参加希望が15名、オンライン視聴希望が5名の計20名の申し込みがあったが、1名が事前辞退したため、申込された全員の受講を承認することとした。現地参加予定の1名が当日に欠席となり、また、研修2日目に現地参加1名がやむを得ず欠席となった。そのため、研修1日目の参加者は18名（内、オンライン視聴5名）2日目は17名（内、オンライン視聴5名）となり、2日間全てのカリキュラムに現地参加したのは12名であった。

・会場について

令和2年度木育マイスター育成研修及びフォローアップ研修について、今年度は札幌近郊の苫小牧市で実施した。全道各地から参加しやすいよう、道央地域での開催としたが、イコロの森内の研修会場は国道から入り組んだ道を進んだ先にあるため、一部の受講生からは場所がわかりづらかったとの声もあった。研修施設及び周辺の環境については高評価であった。

・研修時期について

木育マイスター育成研修は、秋（第1回目が9月、第2回目が10月）に実施した。OJTは1回目と2回目の間（9月上旬～10月下旬）に行い、OJTで経験したことを第2回目研修で活かせるようにしたことで、第2回目研修の際に受講生の理解がより深まったと思われる。フォローアップ研修は、OJTとの日程が重ならないように育成研修終了後に実施したため10月末開催となった。

・カリキュラム・スケジュールについて

研修終了後に受講生から取ったアンケートによると、カリキュラムについては概ね満足を得られている。講座の時間もちょうどいいと答えている方が多く見受けられた。今年度は、新型コロナウイルス感染防止対策の換気のため休憩時間を例年よりも多くとったため、4日間の研修時間が長くなつたが、事前に終了時間が延長する可能性があることを案内していたので受講生からは特に指摘はなかった。

・今後の木育について

木育マイスター育成研修は平成22年(2009年)度から実施されているが、2009年～2019年度の10期で合計270名の木育マイスターが誕生した。今年度、新たに14名のマイスターが加わり、合計284名となる。

木育マイスター1～10期生は、木育マイスターーリングリスト内で情報交換、意見交換などを行い、交流が進んでいる。また、今年度研修のOJTの受入先となってもらい、各人の地域・会社などで木育

プログラムを行ったり、各地域のマイスターが集まって木育フェスタを実施したりと、それぞれの地域・立場で活躍中である。今年度の11期生も先輩マイスターに続き、活躍が期待される。

今年度の木育マイスター育成研修では、例年と変わらず40名程度の申し込みがあり、この研修の受講希望者はまだまだいると思われる。また、応募の際のレポートには皆木育にかける思い、やりたいことが記載されていた。

また、昨年度より、北海道が認定した「木育マイスター」を対象としたフォローアップ研修を開催した。募集の結果18名を受講生として案内し、現地参加の13名のうち12名が2日間にわたる全カリキュラムを修了したが、各参加者とも、今後の木育マイスターとしての活動を円滑に進めるために、精力的に研修を受講していた姿が印象的であった。また、マイスター同士の交流も深まり、同期以外のマイスターとも活動を共にしていけるネットワークが構築されたと思われる。

今年度は一部の講座にオンライン視聴を実施した。途中、通信環境が不安定となり、オンライン視聴の受講生にはご迷惑をお掛けする結果となった。今後もオンライン視聴の研修は想定されるので、安定したオンライン研修が実施できるよう通信回線の整備や機器の改善に努めていきたい。

最後に、今後も北海道の木育の普及を推進していくためには、この11年間の研修で誕生した木育マイスター同士のネットワークをより強固なものとし、協力しあって木育の普及に取り組んでいくことが必要である。北海道の木育を進めていくためにも、本研修は継続して行われる必要があり、より多くの方に機会と場を提供されるべきと考える。

以上